

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
まごころ「はなのい」		令和6年 12月 2日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容に合わせ各スペースを活用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		役割分担を明確にしている。 予定から状況により、都度変更もあり。	職員一人一人のスキル向上。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		凹凸や柱等の鋭角箇所の保護を行い、安全確保を行っている。	支援中等に関して危険個所に関する、各職員のヒヤリハット意識を高めること。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		安全管理委員会担当者が中心になり施設の屋内外及び車両管理の実施をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		状況により、安静に過ごせる場所に移動の上、見守りを図る。	心身が落ち着く音楽や空間づくり。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		目標評価シートを実施している。支援面やスキル向上の為の課題を設定の上、業務評価を実施。	進捗に伴う目標設定に関して、計画等の修正・改善。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年実施しているアンケートのご意見・要望や各面談時、送迎時に実施。	マンネリ化しないよう、5領域に沿った支援・活動（幅広い内容）を限られた時間で実践していかなければならない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		その日の振り返りや支援前のミーティング等で行っている。必要に応じて課題に向けたミーティングを実施。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在第三者による評価は行っていないが、今後必要に応じて外部評価も検討していき、業務改善に繋げていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		各委員会が中心となり定期的に研修や訓練を実施。また専門誌を読んだレポート提出。専門分野の外部研修を受講。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		スタッフ間、話し合いながらプログラムを作成している。	今後、公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		子供と保護者の現状と把握してニーズに寄り添える計画を作成。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		常勤・非常勤を含め支援前のミーティングやその日の振り返りを支援記録記載の際に情報共有。直近の学校や家庭の様子を考慮。	家庭や学校で過ごす時間が多い為、もう少し情報共有する事案を多く提供してもらいたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		常勤・非常勤を含め支援前のミーティングやその日の振り返りを支援記録記載の際に情報共有。直近の学校や家庭の様子を考慮。	家庭や学校で過ごす時間が多い為、もう少し情報共有する事案を多く提供してもらいたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		学校の先生や、保護者からアセスメントをし、子どもの行動を要観察し、職員間で情報共有をしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		5領域を念頭に立案・実施している。	5領域の導入バランス
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		定番プログラムの他、アンケート回答を踏まえ、特に要望が多く寄せられた活動内容を取り入れるように努力している。	同上

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		計画内容に合わせ、個別活動、集団活動を組み合わせながら行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		利用予定表に送迎予定・タイムスケジュールを作成の上、それを基に欠席・追加利用、各種の役割分担等を明記。見える化しているので職員全員が共有できる。	欠席者・追加利用者数によるプログラム変更
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後の支援記録作成の際に、活動記録（実施内容・行動）を踏まえ様子・状況等を確認して共有している。	支援時間全般をより細かな記録できるシステム構築。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		直近の様子を踏まえ、関係機関・家庭との連携を図り、必要に応じて見直しを行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		子どもが意欲的に関われるような遊びを通して成功体験、表現する喜びの体験等、多彩な活動プログラムを実践。	社会体験プログラムを地域と連携の上、取り入れる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自由遊びの時間の中で実践したいプログラムの選択及びバリエーション決めを行っている。	選択に偏りが生じないよう配慮しなければいけない。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者、児童発達管理責任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		家庭や相談員さんの情報共有の上、必要に応じ学校等、教育機関と連携をしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		提供を可と不可の学校がある為、不可の学校に通う場合は保護者から協力の上、把握している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	相談支援事業所からの情報を得る場合がある。	今後は積極的に情報共有を行っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて対応している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修等の情報提供を頂いているので、参加できる機会があれば、参加しています。	今後はさらに連携を図り、助言等を受ける機会を設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域の方を招いたイベント等を計画して、地域交流を行っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会に参加して、他事業所と交流をし、情報共有をしています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳、送迎時のその日の様子や直近の変化・気づき等を報告する。また家庭や学校での様子などの聞き取りも行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		ペアレントトレーニングは実施できていないため、今度取り組んでいくために職員の知識向上に努めていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、報酬改定の都度、説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		現在実施出来ていない為、希望等も含めて検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		各事業所で発生した案件を速やかに事実に基づき報告を作成の上、全職員が回覧押印の上、再発防止に取り組んでいる。	個々の受け取り方により、意見・苦情等の扱い判断が難しい場合がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		紙ベースの書類関係は鍵付き書庫に保管。データベース関連、クラウドに保管。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		職員各々が、「保護者の願いや障害のある保護者の気持ちに寄り添う対応」を心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		行事への招待などは実施していないがHPなどで情報発信は心掛けている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		安全管理委員会が中心となり、各種マニュアルを策定し、職員及び訓練を実施。地震・火災時の避難訓練では、支援中に実施。	避難訓練の精度の向上。昨今、想定外の自然災害に備え訓練の再構築が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）は策定されており、事業所では避難訓練を年2回、法人全体でBCP訓練は年4回行っている。	訓練を行うごとに振り返り、反省点や課題について修正して、より良いものに改善している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時にプロシートファイルを提出していただき、職員全員が把握している。変更等がある場合は、上長から職員に周知連絡の上、対応。	変更が生じた場合、保護者からの情報提供方法の再構築。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にプロシートファイルを提出していただき、職員全員が把握している。変更等がある場合は、上長から職員に周知連絡の上、対応。	変更が生じた場合、保護者からの情報提供方法の再構築。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を基に各委員会が中心となり、研修・訓練を実施している。その他、危険箇所の確認・点検の実施。	構造上、改修等も今後検討しなければならない場合もある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者から緊急連絡先の情報をもらっている。また、安全計画に基づく研修等もSNSなどで周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット項目を一覧表に記載の上、再発防止防止に取り組む。	些細な事項であってもより多くの事案を提議できる体制づくりをしていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会が中心となり年間計画を立て職員全員が受講の上、対応している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			